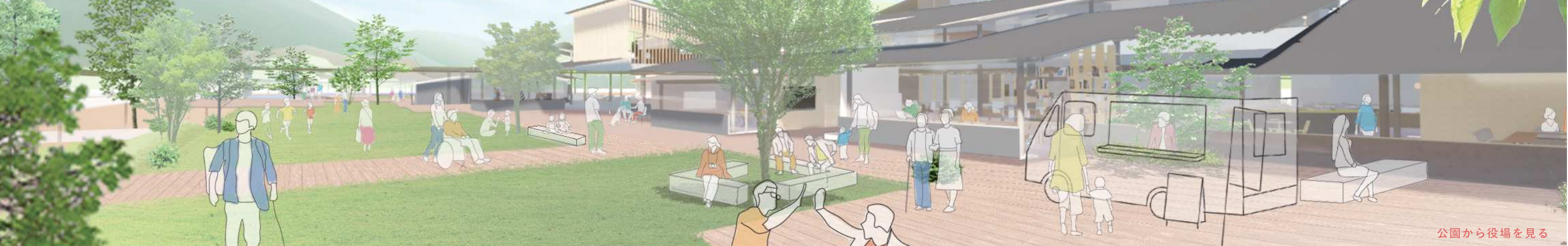


成熟した文化と歴史が育んできた多様性、自然と人々の調和を守り、世界へ発信する活動拠点

ーシビック・プライド・プラットフォームとしての庁舎と複合施設ー

軽井沢は豊かで美しい自然環境、明治時代のホテルのサロン文化からつながる別荘文化、文豪・芸術家などの創作活動、夏冬のオリンピックを迎えたスポーツ文化など、時代を超えて受け継がれてきた上質な文化があります。そして、定住者、別荘所有者、移住者、二拠点居住者、リゾートテレワーカーなど多様な人々が集い、交わり、学び合う寛容性の高いコミュニティが形成されてきました。世界に誇るべき軽井沢の未来を育み、担う人々が集う活動拠点の提案です。

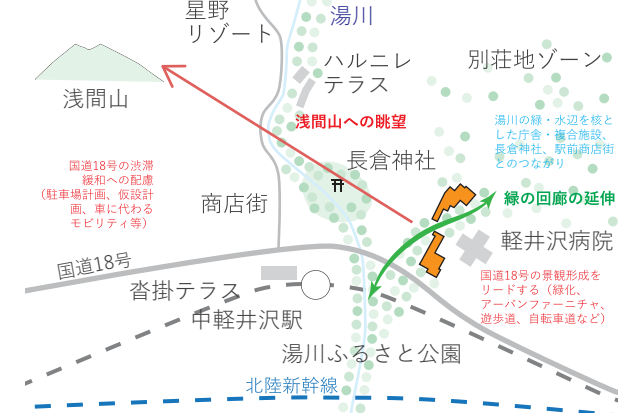


公園から役場を見る

01 軽井沢の未来を共に考える拠点 ＜シビック・プライド・プラットフォーム＞

テーマ1 テーマ3 テーマ4

1-1:新庁舎と複合施設とまち全体が相互補完的に連携し、軽井沢の未来を担うための中心拠点となります。



・敷地内のグリーン・コリドーを国道18号から湯川、ふるさと公園や沓掛テラス、中軽井沢駅へとつながる木陰の散策路と捉え、18号沿いに軽井沢らしいストリートスケープを創出するなど、生活者の為の歩行・自転車生活圏を豊かにするきっかけをつくります。

1-2:町役場は従来型の行政サービスの場から、行政と市民が共に未来を考え新たな発見を促す協働の場、イノベーションを起こす場となると考えます。

・コワーキング推奨団体やNPO法人など、軽井沢の町をよりよくする人々の活動をサポートする場として大小様々な内外スペースを計画します。
・庁舎に用事がなくても立ち寄りたくなる、行けば新たな発見がある場所をめざします。



親自然な協働の場のイメージ

1-3:複合施設には公民館機能に加え、アート、音楽、サイエンスなどを身近に体験できるオープン・ラボやスタジオ、アトリエを備え、あらゆる世代が一緒に集えるクリエイティブなプラットフォームを提案します。



02 豊かな自然環境と調和し、風景に溶け込む佇まい ＜グリーン・コリドーとコミュニティ・コリドー＞

テーマ1 テーマ3 テーマ4

雄大な浅間山の風景と豊かな自然環境の中に、ランドスケープと建築が一体となった多様な居場所を点在させることで軽井沢に集う様々な人たちの活動をサポートし、軽井沢らしい魅力あるまちづくりに貢献します。

2-1:軽井沢由来の素直で多様な植生から成る＜グリーン・コリドー＞

- ・絶滅危惧種を含めた軽井沢由来の樹種を中心とした植生とし、ローメンテナンスで持続可能な環境を創出します。
- ・設計段階から地元住民やNPOと植栽WSなど連携を図ります。
- ・みどり豊かな雑木林や浅間山へのビューを確保する抜けなど植栽の粗密、静かな木陰、芝生広場、あそびの広場、デッキテラス、屋根付きテラス、あずま屋、大雨時だけ出現する小さな池など、自然と人とのグラデーショナルな関係性を作り、外部も内部も季節や天候に応じて自由に選択できる多様な場を作ります。
- ・18号沿いのにぎわい広場では、木陰の下キッチンカーやマルシェなど賑やかなシーンが風景を彩ります。
- ・駐車場廻りは、建設残土を盛り土した植栽帯として風景に馴染ませます。
- ・隣接する軽井沢病院とつなぐことでリハビリの散策コースとしても利用できる計画です。



国道沿いの風景のイメージ

2-2:県産材を利用した軽井沢を象徴する＜コミュニティ・コリドー＞

- ・長野県の県産材を利用し、軽井沢を象徴する雑木林のような穏やかな空間です。
- ・2階の窓口までつながる大きな吹き抜け空間は、避難安全検証を行う事で内装制限をかけずに、コストを抑えながら木質系仕上げとすることが可能です。
- ・庁舎から複合施設までをつなぎ、様々な活動の場が展開する内部・半外部空間です。
- ・待合、コンシェルジュ、図書・展示・情報発信、キッズコーナー、職員と市民連携のコラボレーションスペース、コワーキング、ミーティング、地域活動センターなど様々な活動をサポートし、連携、発見を生み出します。
- ・自由に使える電源付きカウンターや机、椅子、ソファなど多様な家具を配置します。
- ・外部も含めた空間全体で、来庁者も職員も場所を選択して働けるABW (Activity Based Working) を実践できる場とします。

コリドー沿いに豊かな緑とともに広がるアクティビティのイメージ(※チーム設計実績)

